

サポート

No. 199

令和6年2月29日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

特別支援学校生の職域拡大を目指して

～「特別支援学校生の職域拡大・職場定着促進事業」の取組～

県教育委員会では、特別支援学校生の就職支援や企業等に対して障害者理解を図るための取組を行っています。今年度は、特別支援学校生の就労可能な職域拡大を目指し、特に事務系の職域拡大に力を入れて取り組みました。本事業における主な取組と成果を紹介します。

Ⅰ 事務系等の職域拡大の取組

(1) 事業推進拠点校の指定と職域拡大・職場定着促進会議の開催

本事業の推進拠点校として、県立栗田支援学校を指定し、職域拡大・職場定着促進会議を開催しました。会議では、学識経験者、教育・労働・福祉、事業所関係団体の方々と、事務系等の職域拡大に関する現状や課題、方策について協議を行いました。



職域拡大・職場定着促進会議

【協議の要点】

- ・事務系の業務内容は多様化している。学校は事務系業務の内容を把握し、生徒や保護者と情報共有することを通して、事務系業務の認識にズレが生じないようにすることが大切である。
- ・事務系業務を含めて、多様な仕事ができる人材を企業は求めている。
- ・ICTを活用したリモートワークは県内でも少しずつ広がってきている。障害のある方も戦力として捉えている企業もある。今後は、自社の良さ等を外部へ「情報発信できる力」が求められる力の一つとなる。

(2) 職域拡大推進員の配置

事業推進拠点校に職域拡大推進員を1名配置し、事務系等の職域を拡大するための事業所訪問や実習の依頼・交渉を行いました。推進員が訪問先で得た情報や事務系等の職域拡大のノウハウを生かし、特別支援学校生徒の進路選択や就労機会の拡充が図られるよう努めていきます。

2 理解推進の取組 ～特別支援学校就労促進フェアの開催～

特別支援学校生の就労促進に向けて、企業関係者等の理解推進を図るため、県内3地区で就労促進フェアを行いました。技能競技会「錬成会」の他、就労を目指す生徒の実践発表を行い、約100名の企業関係者の方へ、生徒たちの日々の職業教育の成果や就労に向けた思いを伝えることができました。生徒の働く意欲を培う職業教育と主体的な進路選択につながるよう、今後も関係機関と連携しながら取組を推進していきます。



事務系の力を育むために
～ワード・プロセッサ競技～

(特別支援教育課 指導主事 工藤 智史)

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「特別支援学級実践研修」は、特別支援学級の担任による提示授業に基づく協議を実施することにより、特別支援学級の担任の実践的指導力の向上を図る研修です。

小・中学校等における特別支援教育の充実に向けて

～意欲をもって学習に取り組むために（特別支援学級実践研修より）～

大仙市立四ツ屋小学校、知的障害特別支援学級（５年生１名）の算数科の実践を紹介します。

「大きな数～お金の計算 買い物～」という単元で、模擬的な買い物の活動で金銭を操作することを通して、１０ずつまとめて数えることのよさを理解し、２位数や３位数の位取りの概念などを身に付けることをねらいとした実践です。適切な実態把握を基にした学習展開や教師の関わり方に、児童が意欲的に学習に参加し、理解を深めるための工夫が見られ、金銭操作への苦手意識の軽減や注意の持続につながっていた授業でした。

意欲をもって学習に取り組むための手立てとして、児童が大好きなゲームのカードを教材として活用しました。カードには金額を表す硬貨のイラストが貼られており【写真１】、そのイラストを手掛かりに金額を記入し値札を作成しました。作成した値札と硬貨のイラストは、買い物の活動の際に金額を確認するツールとして活用しました。また、硬貨を並べて操作しながら金額を計算するワークシート【写真１】は、児童が主体的に学習を進め、理解を深めることができる教材でした。

値札書きや買い物の活動など、短時間でできる活動を積み重ね、動きのある学習展開で児童の意欲の持続を図りました。また、店員と客の役割を交替したり、両替する場面を設けたりすることで、



写真2 買い物活動の様子

必然的に金銭の操作を繰り返し行うことになり【写真２】、ねらいを達成するための学習活動が意図的に設定されていました。

授業前には「お金は苦手だな…」という発言があった児童でしたが、このような丁寧な授業づくりの下で、授業中は終始笑顔で意欲的に学習に取り組みました。「できる」「分かる」ことが学ぶ意欲となり、学びの実感を得て自信へとつながる、参考となる実践でした。

（南教育事務所仙北出張所 指導主事 大川 浩平）

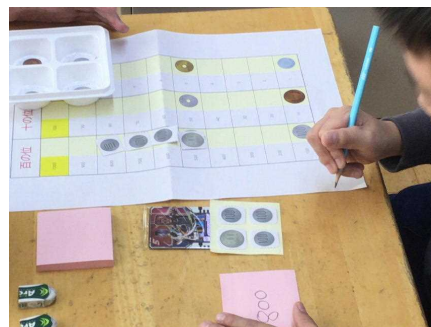


写真1 ワークシートなどの教材

令和５年度 優良PTA文部科学大臣表彰

文部科学省では毎年、PTAの健全な育成、発展に資することを目的とし、優秀な実績を上げているPTAの表彰を行っています。今年度は、秋田県立ゆり支援学校のPTAが受賞しました。

ゆり支援学校は、学校とPTA、地域が連携協力しながら、地域の海水浴場のクリーンアップや花いっぱい活動など様々な活動に取り組んできました。

ゆり支援学校 PTA の皆さんおめでとうございます。



「交流及び共同学習」の取組～大曲支援学校せんぼく校の居住地校交流～ 県立大曲支援学校せんぼく校

本校では今年度、小学部6名（5校）、中学部3名（2校）が居住地校交流を実施しました。相手校との打合せでは、取り入れられそうな支援や環境調整を検討しながら、お互いの学習のねらいを明確にして活動を考えました。

小学校5年生の図工に参加した児童は、題材「コロがるくんの旅」に向けて、事前に作り方や頑張り発表の練習もしました。当日は、タブレットを活用し、自信満々に作り方を紹介するとともに、友達の発表にも関心を示しながら伸び伸びと一緒に遊ぶ姿が見られ、相互に学びが深まる学習になりました。また、ある中学校では、事前の障害理解授業で紹介した作業学習製品の鎌足和紙を使い、美術部が制作活動をしたという要望がありました。中学部の生徒全員で完成した作品を見せてもらう日を楽しみにしています。

今年度は中学部3名が新規に実施しました。今後もより一層、交流校と協力しながら居住地校交流を充実させ、共に学び、共に育ち合う中で、せんぼく校の児童生徒が地域の一員として認められる共生社会につなげていきたいと考えています。

（大曲支援学校せんぼく校 教諭 佐々木 奈織）



小学校3年体育：風船運び競争



小学校5年図工：コロがるくんで遊ぼう

令和5年度 文部科学大臣教育者表彰

文部科学省では、学校教育において顕著な功績をあげた方を表彰しています。この度、秋田きらり支援学校の 新井 敏彦 校長が「令和5年度文部科学大臣教育者表彰」を受賞されました。

新井 敏彦 校長先生、この度は本当におめでとうございます。



肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展 特賞受賞

社会福祉法人日本肢体不自由児協会主催の「第42回『肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展』」において、秋田きらり支援学校中学部1年の福原 毅士さんが、特賞（オリックス賞）を受賞しました。

表彰式は、令和5年12月13日（水）に東京芸術劇場で行われ、その報告に特別支援教育課に来課してくださいました。

この度は本当におめでとうございます。



第48回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 文部科学大臣賞受賞

農業協同組合主催の「第48回『ごはん・お米とわたし』作文・図画コンクール」において、横手支援学校中学部1年の伊藤 風華さんが、絵画部門で文部科学大臣賞を受賞しました。その報告に、特別支援教育課に来課し作品を披露してくださいました。

この度は本当におめでとうございます。

